



パールロードから鳥羽湾を望む眺め



波静かな入り江にある石鏡漁港



石鏡神社にある「子宝の石」



鳥羽展望台から大海原を眺める

願いが叶うスポットと
潮風が心地良い散歩道
次の目的は相模町です。パールロードの「相差」の看板に従い海をめざします。

がありました。ここでは、漁村の生活や歴史、文化、海女に関する約6万点の民俗資料を所蔵・展示しています。なかでも、収蔵庫に並ぶ100艘の木造船の展示は圧巻の一言。船大工や漁師たちの息吹きが伝わってきます。また、この博物館は、1993年に日本建築学会賞を受賞。室内を覆う木材によるアーチ状の構造は、大変見ごたえがあります。

「パールロード」に戻ると、すぐに広い駐車スペースがあります。ここは、鳥羽湾を望む休憩スポット。波穏やかな湾の向こうに島が浮かぶ景色を楽しむことができます。

次の目的地、**石鏡神社**は、「パールロード」から少し離れた**石鏡漁港**の近くにあり

ります。漁港への案内板に従い、海の方へと下りていくと、背後を山に守られた石鏡漁港にたどり着きました。漁港周辺は、釣りポイントとしても知られています。神社への道標に沿って細い路地を進むと、山のふもとに石鏡神社が現れます。鬱蒼とした境内には「子宝の石」があり、これをまたぐと、子宝に恵まれると伝えられています。石鏡神社を後に次の目的地へ。

**海の壮大さと激しさを知る
2つの景観スポット**

鳥羽展望台は、海拔163メートルの高台にあります。太平洋の大海原が一望できる景観スポットです。冬の天気の良い日

には、遠くに富士山も望めるとのこと。元旦には水平線から昇る日の出を見ようと、多くの人で賑わいます。展望台へのゲート開門は、元旦のみ午前2時ですが普段は8時から17時なので注意が必要。爽快な景色を堪能したら、次は志摩半島の最東端に建つ**鑑崎灯台**をめざします。

鑑崎灯台へは、「パールロード」から国崎町への看板に従って向かいます。突き当たりを左に曲がり、そのまま堤防沿いを走ります。道の先にこんもりとした小山が見えたら、その奥が灯台です。木々のトンネルを歩いて通り抜けると、突然視界が開け、鑑崎の突端に到着。白亜の灯台が、広大な海を見守るかのように入っています。このあたりは潮がぶつかり合うため、昔から海の難所として漁師に恐れられてきました。岩礁に波が砕け散る様子が、それを物語っているようです。

海とともに生きる 漁村の人々の暮らしを知る

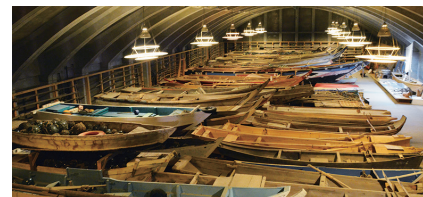
JR「鳥羽」駅から南下して浦村町に入ると、「パールロード」につながります。しばらく進むと、今回の出発点、**麻生の浦大橋**が見えてきます。生浦湾に架かる

この橋は延長196メートル。アーチ状の白い橋と、海の青、山の緑のコントラストが見事な景観をつくりだしています。

麻生の浦大橋を渡り、木々の緑に囲まれながら道を上っていくと、**海の博物館**の看板が目に入ります。案内に従い、道を折れて行くと、石垣に囲まれた黒い建物



美しい曲線美を描く麻生の浦大橋



海の博物館に展示されている木造船

ふるさと再発見の第二十一回目は、鳥羽市の南エリアにあたる南鳥羽です。三重県の南東部に位置する鳥羽市は、日本を代表するリアス式海岸がある、志摩半島に属しています。

鳥羽市から志摩市へと、志摩半島の海側を走る道は「パールロード」と呼ばれ、山の緑と、時折見える海の景色が美しい人気のドライブロード。今回は、この「パールロード」を南下しながら、南鳥羽の見どころを訪ね、太平洋の雄大な景色や、海との関わりが深い町の魅力を紹介していきます。



再発見
ふるさと

太平洋の絶景と 海とともに生きる町 鳥羽市〈南鳥羽〉



枝ぶりに迫力がある昇龍の松



女性の願い事を叶える石神さん



潮騒を聞きながら歩く鯨崎遊歩道



「気軽にカフェに来てください」と話す西明寺の住職、星見さん

ここにも注目

みどろ 浦村かき (うらむらかき)
生浦湾は、波が穏やかでエサが豊富なことからカキの養殖が盛んです。「パールロード」の起点でもある浦村町のロード沿いでは、焼きガキを提供する店が点在しています。



資料館の横の坂を上ると、相差地区の氏神さんである神明神社があります。参道の横に、石神さんと親しまれている小さな社が建っています。海女さんたちの守り神といわれ、古くから女性の願いをひとつ叶えてくれると伝えられてきました。全国から多くの女性が、お参りに訪れるこの社で願い事をひとつ書き、お祈りをしてみてはいかがでしょうか。

駐車場まで戻り、そのまま海に向かって歩くと堤防に突き当たります。左手に、千鳥ヶ浜と呼ばれる白砂の美しいビーチが見えます。右手には堤防沿いに散歩道が整備されていて、潮風にあたりながら散歩が楽しめます。散歩道の先に、木々に覆

われた鯨岬が見えます。岬には鯨崎遊歩道があるので、そこまで歩を進めます。昔この岬に、鯨に乗った観音様が現れたという伝説からこの名がつけました。林の中の階段を上っていくと、岬の先に鯨供養の塔がありました。ここから、岸壁をたたく波の音を聞きながら、太平洋の眺めを楽しむことができます。

**和尚さんと語らいながら
寺カフェでほっと一服**

旅もいよいよ最後の目的地へと向かいます。県道750号線に入り、畔蛸町内と示す看板に従い左折。道なりに進むと、突き当たりに西明寺があります。ここは、

鎌倉5代執権・北条時頼ゆかりの寺です。本堂では、抹茶とお菓子をいただきながら和尚さんと話をする『寺 de Cafe』を体験できます。静かな空間で、ゆつくりと語らいの時間を過ごしていると、心が清められそうです。帰りにお線香とお賽銭をあげ西明寺を後にしました。

南鳥羽を巡る旅もここで終了。太平洋の雄大な景観と、海沿いで暮らす人々の暮らしを垣間見る旅でした。



View Point 志摩半島の先端に建つ鯨崎灯台



等身大の海女のジオラマがある相差海女文化資料館

「石神さん相差町へ」の看板がすぐに現れるので、右折して道なりに行くと、「石神さん駐車場」と書かれた看板が見えました。ここに車をとめて、相差町をまわります。駐車場の横に、相差海女文化資料館があります。昔の海女の作業風景のジオラマや、道具・磯着の展示を見ることが出来ます。敷地内には幹回り5メートルもある立派なクロマツが立っています。樹の形が天に昇る龍の姿に似ていることから、昇龍の松と呼ばれています。枝に手を当てる願い事をするという言い伝えがあり、まさに開運の松として存在感を放っています。